

たからづか都市計画マスタープランの見直し等について
ニュースをお届けします！

人口減少や少子高齢化が進展するなか宝塚市が魅力的な街として持続していくための都市づくりを進めるため、令和元年（2019年度）～令和3年度（2021年度）の3年をかけて新しいまちづくり計画の策定（たからづか都市計画マスタープランの見直し、（仮称）宝塚市立地適正化計画の策定）を進めていきます。

Vol. 04では、宝塚市都市計画マスタープラン及び宝塚市立地適正化計画骨子の住民説明会の結果についてご報告します。

宝塚市都市計画マスタープラン及び宝塚市立地適正化計画骨子の 住民説明会を開催しました！

住民説明会について

宝塚市都市計画マスタープラン及び宝塚市立地適正化計画骨子について、計画の目標や方向性、具体的な方針について説明を行いました。

日時	場所	参加者
11月7日（土） 14：00～15：30	中央公民館ホール	2名
11月12日（木） 14：00～15：30		10名



宝塚市都市計画マスタープラン骨子の主な意見



参加者

現行の都市計画マスタープランからどこを変えたのでしょうか。また、どこをより力を入れていくのでしょうか？

今回の都市計画マスタープランは、2012年の都市計画マスタープランを継承するという考え方なので、大きくは変わっていません。今回、目玉として考えていることは、「駅周辺を中心としたまちづくり」で「機能よくコンパクトなまち」を作っていく、「持続可能なまち」としていくところになります。



事務局



参加者

オールドニュータウンの再編の方針はどのようになっているのでしょうか。

オールドニュータウンの再編については、都市計画マスタープランやその他の様々な計画と連携しながら、住宅地として維持し続けていくことを目標として掲げ、その手段については今後、施策展開の中で考えていきます。



事務局

宝塚市立地適正化計画骨子の主な意見



参加者

重要な施設が浸水区域に立地している場合は、高台移転まで考えているのでしょうか。また、ハザードマップの1/100年確率と1/1000年確率は、どちらを注視しているのでしょうか？

浸水区域の対策として高台移転までは検討していません。ただし、昨今の未曾有の災害への対応を検討していく必要があると思います。1/100年確率、1/1000年確率は、庁内で議論をしているところです。1/1000年確率が公表されているので、公表されている事実をどう位置付けるか。これからの状況を見ながら検討していきます。



事務局